

枯れすすきの人生

1975（昭和 50）年に結婚式で妻の両親に必ず幸せにしてみますと誓った。その頃に「昭和枯れすすき」（山田孝雄作詞・むつひろし作曲）で「さくらと一郎」の歌が大ヒットした。

「♪～ 貧しさに負けた いえ 世間に負けた この街も追われた いっそきれいに死のうか力の限り 生きたから 未練などないわ 花さえも咲かぬ 二人は枯れすすき

踏まれても耐えた そう 傷つきながら 淋しさをかみしめ 夢を持とうと話した 幸せなんて 望まぬが 人並みでいたい 流れ星見つめ 二人は枯れすすき ～♪」

私の周りには世の中でこれほど不幸な人はいないと思われるような人もいる。何をやってもうまくいかない人もいる。不運としか言えない人生を生きる人もいる。しかし必死で生きようと努力する姿勢に私は感動する。その人が細やかでもいい、幸せを感じられるその日までエールを送り続けたい。

秋も終わり冬に差し掛かる頃、兵庫県の中央部に位置する生野町を訪れた。山深いこの辺りには残された柿と、紅葉は色褪せていた。冷たくきれいな小川が流れている。静かだった。人を見ることは無い。そんな大自然の中で思いもしなかったすすきが群生に出会った。それらは全て枯れすすきであった。しかし一筋の小道を歩いたその時、辺り一面を小春日和に照らされて、命の最後を精一杯飾るかのように見事な美しさを表現していた。また会おうね！声をかけた。撮影 2013 年冬

